

（午後2時10分 再開）

○議長（石橋英和君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番11、15番 田中君。

〔15番（田中博晃君）登壇〕

○15番（田中博晃君）皆さん、こんにちは。昼から2時といえば、一番眠たい時間なんですけれども、また少しの間おつき合いいただければと思います。まずはじめに、土井さん、誕生日おめでとうございます。

私も4年前を思い出しますと、初めてここで一般質問をしたのが6月議会やったんですけれども、当時の各部長からの答弁、今でも覚えています。すごく緊張したな。そんな中、きょうで16回目の一般質問になります。この議会が終わりますと、賞味期限、消費期限を、また市民の皆さまに決めていただかなければならない。すごく今から不安でいっぱいですが、まずは3月議会に全力投球したいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

それでは、通告に従いまして一般質問を行います。

まず1項目め、庁舎等への地場産品の使用や展示についてです。

過去の一般質問で何度も地場産品の使用について訴え、市長室や副市長室、議長室のソファやカーテンがパイル織物に、また防災用毛布の採用などパイル製品を積極的に採用いただいていることに感謝いたします。

さて、本市なんですけれども、パイル織り編み物やへら竿が、国内断トツの生産量を誇っています。しかし、橋本市民の皆さんにあ

まり知られていないのが、残念でなりません。例えばとても有名なアイドル歌手が、ある雑誌の表紙で着用していたジャケットの素材が、橋本市産のパイル生地でした。また、5人組みアイドルグループが着用しているジャケットも同様です。さらに、新幹線のシートにも、橋本市で生産された生地が使用されていますが、市民にはほとんど知られていません。

また、アパレルやインテリアだけでなく、液晶を磨く産業資材としての用途や化粧用パフなどもありますが、これらもあまり知られていません。

橋本市を、そして地場産品を国内、世界に売り出すためには、まず市民の皆さんに地場産品を知ってもらわなければなりません。ほかの地域では、地元の繊維製品を壁張り、壁布に用いているところもあります。

橋本市産業基本条例では、産業の振興が地域の活性化に果たす役割の重要性に鑑み、産業の振興に関する基本的な事項を定めることにより、その基盤の安定、強化及び健全な発展を促進し、もって地域社会の発展と市民生活の向上を図ることを目的としています。

地場産業振興センターの開所を目前に控え、市民の皆さんにも同センターに足を運んでもらい、利用を促す一つ的手段として、また地場産品をもっともっと知ってもらうために、庁舎内等で使用や展示・掲示し、周知に努めることが必須だと考え、以下の質問を行います。

1、ロビー等、市民の皆さんに目につく場所に、地場産品を、その性質でローテーションを組み、展示・掲示することは可能か。

2、ロビーのソファに傷みがあることか

ら、パイル製品をカバーとして使用することは可能か。

3、今後、本市が地場産品をどのような形で市民に伝えていくのか。

発言項目の2番です。

紀望の里等市内集客施設を利用した観光対策についてです。

紀望の里の温浴施設は、毎年利用者が増え、今年度は推定5.6万人の利用が予測され、近い将来6万人を超えると推測されています。周辺整備事業で、これだけ動員できる施設は、市内外を見てもあまりなく、成功した事例であることは言うまでもありません。

来年度は、温浴施設の増設工事が始まりますが、その施設の性格から、夜間に使用が偏ることが容易に想像できます。今後、昼間の利用者数を増加させるためには、子ども用の遊具の設置はもちろんのこと、例えばパッカー車の基地をエコライフ付近に移動し、中島区にあるような健康遊具を設置すれば、その施設の性格とリンクすると考えます。

また、紀望の里や地場産業振興センター、くにぎふれあいの里などの点在する市内集客施設を、互いの施設で看板やパンフ等でPRし、線で結び、面で活用できれば、市外からの客がそれぞれの違う施設に足を運んでいただけの可能性もあります。

そこで、以下の質問を行います。

1、遊具等の設置による集客について。

2、市内集客施設の相互利用を促すために、PR用看板、パンフ等を設置してはどうか。

3、市民以外への利用を促すための手段について。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（石橋英和君）15番 田中君の質問項目1、庁舎等への地場産品の使用や展示に関する質問に対する答弁を求めます。

総務部長。

〔総務部長（栢谷俊介君）登壇〕

○総務部長（栢谷俊介君）1点目のロビー等、市民の皆さんの目につく場所に、地場産品を展示・掲示することは可能かのご質問にお答えします。

地場産品を振興する観点から、庁舎ロビーに地場産品を展示・掲示することは、市役所に来られた市民の皆さんや他市町村からの来庁者に、地場産品を知ってもらう良い機会となり、販売促進につながる一つのご提案だと考えます。

しかしながら、庁舎ロビーが手狭なことに加え、窓口業務における来庁者も多いことから、展示スペースの確保につきましては、来庁者の安全面を考慮した上での検討が必要だと考えます。

次に、2点目のロビー等のソファに、パイル製品をカバーとして使用することは可能かについては、地場産品であるパイル製品を実際に触れてもらうことにより、本市のパイル製品のPRはもとより、来庁者に対する本市のおもてなしの心を伝えられる良い機会になると考えますので、パイル製品をカバーとして使用してまいりたいと考えます。

○議長（石橋英和君）経済部長。

〔経済部長（笠原英治君）登壇〕

○経済部長（笠原英治君）次に、今後、本市が地場産品をどのような形で市民に伝えていくのかについてお答えをします。

現在本市では、イベントなど多くの手段、方法により、地場産品を市外、県外の皆さまにPRしています。

しかし、その一方で、市民の方には、本市の地場産品が何であるのか。また、どのようなところに使用されているのかが、十分認知されていないのではないかと感じています。

このことから、地場産品の単なる展示だけではなく、触れて体感していただくことが必

要であると考えています。その一つとして、現在、橋本市地場産業振興センターにパイル織物が使われている新幹線N700系のグリーン車のシートの展示を検討しているところです。実際にさわったり、座ったりして、地場産品であるパイル織物の素材のすばらしさを感じてもらいたいと考えています。

そのほか私鉄、JR、観光バスのシートから、国会議事堂の議員席、皇居のテーブルクロス等に至るまで採用された本市のパイル織物をはじめ、たくみの技により制作されたへら竿や竹製品などもふるさと橋本応援寄附金のお礼品のカタログに掲載するなどして、市内外の皆さまに知っていただけるよう努めてまいります。

また、本市地場産品の情報発信として、「広報はしもと」等で特集ページを掲載することなどを考えていきます。

○議長（石橋英和君）15番 田中君、再質問ありますか。

15番 田中君。

○15番（田中博晃君）答弁ありがとうございます。

ソファーのカバーについては、やってくれるということなんで、近いうちにやっていただきたいと思います。

それで、再質なんですけれども、今の答弁でいただいたとおり、私も、やはりさわってもらうのが一番大事ちゃうんかなと。実際に何かわからん中で、これが地場産品ですよと。ちょっとさおのことは、私はあまりわからないんで、無責任なことは言えないんで、パイルが中心になってしまうんですけれども、まずさわってもら。これが一番だと思います。

そこで、地場産業振興センターに、市民皆さんに足を運んでもらう導線として、このロビーというのは、一つの位置づけになるんかなと。ロビー等なんで、ロビーだけじゃない

んですけれども、ロビーもそうやし、もしかしたら保健福祉センター等も入ってくるかもわからんしというのはあるんですけれども、そのあたりにやっぱり何らかの形で展示・掲示をやっていただきたいなと思っておるんです。

確かに安全性の問題であったり、手狭な問題であったり、またその時期時期に応じては、人がすごく集まる時期もありますし、難しいのはよくわかっておるんですけれども、何らかの形でパネルとかそういうのも掲示できやんかなと。私は、それぐらいやったらできるんちゃうんかなと思っておるんですけれども、そのあたりについてはいかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）総務部長。

○総務部長（栢谷俊介君）私も、議員のおっしゃるとおり、展示するということは大変良いことだと思っております。展示するにあたっては、どこへ展示するのが一番目立って、市民の皆さんの目に触れるか。それから、安全面からどこへ飾るのが、子ども等には安全であるか等を勘案しつつ、展示の方向で考えていきたいと思っております。

○議長（石橋英和君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）よろしく願いいたします。

で、ソファーなんですけれども、かなり前から破れていますわね。私も早い段階で一般質問、最初、経済部とすり合わせしたんですけども、その後、総務系ともすり合わせして、ちょっとぐらい何か直っているんかなと思ったら、まだ今も破れたままなんですよね。

やっぱり、これは市の玄関、顔になる部分は今も破れたまんまというのはどうなんかなと、正直思います。ましてや座るとこなんで、女性の方、パンストをひっかけるかもわからんし、けがまでというのはないと思うんですよ。だから、今もそこで聞いてらっしゃると

思うんで、できるだけ先に何らかの補修はし
といてほしいなど。道路とかやったら長寿命
化というのをやるんですけども、備品も同
じやと思うんです。もしかしたら、もう予算
要求されて通っていないだけというのがある
んかもしれないんですけども、やっぱり長
寿命化、備品も大事に使っていくというのが
大切なんで、その辺はお願いいたします。

それと、新幹線という話、先ほど経済部長
からも答弁いただいたんですけども、新幹
線だけではない、私鉄もたくさんありますし、
ほんまにこんなもんも橋本市の製品なんかと
いうのがたくさんあるんです。それこそ1階
のロビーのソファ関係なんですけれども、
地場産業振興センターだけじゃなくって、例
えば新幹線の生地なんかでのソファカバー
というのも、カバーとセットで新幹線の車両
のパネルなんかも展示したら、啓発にもなる
と思いますし、それがそのままええと言っ
とるわけじゃないんですけども、生地もい
ろんな種類がありますんで、地場産業振興セ
ンターにも行ってほしいんで、そこと連動す
る形でのソファのカバー等を私は考えてお
るんですけども、その辺についてはいかが
ですか。

○議長（石橋英和君）総務部長。

○総務部長（枘谷俊介君）議員のおっしゃる
とおり、もちろん地場産業振興センターへつ
ながるという形で導入していきたいと思いま
す。

○議長（石橋英和君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）何かすつとって、あ
りがとうございますとしか言いようがない
って、どうしようかなといろいろ考えてきたん
やけど、どうしよう。ありがとうございます。

それと、特に衣料品も、実はもう製品とし
てとか展示会用とかとしてもいろいろつくっ
ています。そんな衣料品の展示、やっぱりこ

れもさわってもらいたいですし、高野口の織
屋にいろいろ聞いたら、もう別に持っていっ
てもいいよ、破れてもいいしとかって言っ
てくれるところもあるんです。スペースの問題
はわかった上で、こういう衣料品もできるだ
け展示・掲示して、さわってもらおうとい
うのもできるかと思うんですけども、そのあた
りも。ちょっと狭いからしんどいと言われる
かもわからんけど、その辺はいかがですか。

○議長（石橋英和君）総務部長。

○総務部長（枘谷俊介君）いろんなものを展
示していただいて、手にさわってとって
いただくというのが一番わかりやすいとい
うことで、一番大事なことかなと思います。しかし
ながら、市のロビーも一定の割合の面積しか
ございませんし、いろんなところからいろ
んなものを展示したいというご提案がござい
まして、その中で展示をしているわけござ
いますので、あと保健福祉センターとかいろ
んなところを活用した中で、展示していけ
たらと思います。

○議長（石橋英和君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）ありがとうございます。
ぜひよろしく願いいたします。

それで、先ほど壇上でもお話しさせてい
だいたんですけども、結構もう皆さんが知
つとるタレントなんかでも、高野口の生地を
使ったジャケットを着たりしているんです。
この人かいというぐらいすごい人まで着て
たりするんですよ。

私としては、そういうことも表へ出して
いくのが、一番のPRになるん違うんかな
と。利用するという言葉は悪いかもしれ
ないんですけども、ええように利用させて
いただけたらと思っています。ただ、こ
れを織屋とかに間に入れてもらうとい
うのは、ちょっと商社とかも入ってき
て難しいところがあると思う
んですよ。やっぱりメディア、きのうも5

番議員の質問の中でもメディアという言葉もありましたし、こういうメディアに出られている方をうまく利用してと思うんですけども、もうこれはあかんでもともとで、例えばその事務所と交渉してみる。この方が着た服は高野口製品なんですよという、例えば写真だけでも展示できないかという交渉事は、ロビーとかそこにこだわっていないんですけども、そういう交渉というのは難しいのかな、どうなんかな。やりこと自体が難しいのか。私自身、その辺の理解がないんですけども、どのようにお考えでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）議員のおただしにもありましたように、有名な芸能人のCMジャケットであったり、ファッション誌のヴォーグって、結構外国版とか日本版とかあるんですが、こういったところでモデルが着ている衣装も、実は高野口産であったりします。それとか、あと車のドレスアップメーカーのギャルソンなんかも、実は高野口の製品をたくさん使っています。

そういったところで、高野口の織物が使われているんだということを公にしたいところなんですけど、先ほど議員のおただしにもありましたように、各事業者の契約等の問題もありまして、非常に難しい面がたくさんあると思います。商品の提供事業者と十分協議した上で、可能な範囲でやっていけたらなと考えております。

あと、そういったものを採用していただいとるところに対して、その商品案内のパンフレットのところに、若干有料でも高野口製品やということを、少し掲載していただくことが可能であれば、そういった協議も進めていければなと考えております。

○議長（石橋英和君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）よろしく申し上げます。

最初、新幹線の生地というのもあったんですけども、恐らく新幹線だけじゃない私鉄とかも全て、柄とかも先さまの権利やったりもしたりしますんで、いろんなところと交渉していただきたいなと思いますし、可能な限り表へ出して行ってほしいなと思っております。

そこで、ちょっとまた次の質問なんですけれども、きょうは松本さんの質問でもふるさと学という言葉があったんですけども、やっぱり小さいうちから、小・中学校なんかでも、地元でどういうものをつくられているのかなという、地元にあるもの全てが財産ですし、またこれが本市を好きになってもらう。将来の橋本市を担っていく子どもたちに、地元を知ってもらう一つになると思うんですけども、そういった観点でも、さわってもらおう、触れてもらうという前提のもとに、小・中学校の授業で取り入れることが可能なんかなどうなんかなと思っています。

と言いますのは、私とこの子どもが通っている小学校は高野口なんで、事あるごとに、地元の織屋を見せてもらったりとかというのはあるんですけども、逆にへら竿とかというのは遠かったり、遠い存在であまり知られてなかったりするんですよ。

そういうことも含めて、さおや織物やというだけではないんですけども、いろんなものを含めて、小・中学校の授業の中で、何らかの形で見てもらえる、さわってもらおうということが可能なのかどうかお伺いいたします。

○議長（石橋英和君）教育長。

○教育長（小林俊治君）ご質問にお答えします。

今、議員のおっしゃっておられた高野口小学校は、いま昔プロジェクトということで、高野口の、いわゆるふるさととの勉強をしているということで、非常に熱心に取り組んでい

ただいています。あとへら竿等の体験につきましても、中学校、小学校で取り組んでいるところは数校ございます。

それと、17番議員のご質問にもお答えさせていただいたとおり、「のびゆく橋本市」という副教材がございまして、これは郷土を扱っている教材です。パイル織り工場に見学ということで、4ページにわたって掲載しております。それから、へら竿につきましても、4ページにわたって掲載しております。その授業のときに、例えば体験してみるということは十分やれることだと思っています。

それから、来年度新しくつくります小学校、中学校のふるさと教材の副読本につきましては、例えば小学校につきましては、やはり浅く広く取り扱っていく。しかしながら、そこにも地場産業をしっかりと扱っていく。中学校については、狭く深く取り扱っていく。同じく地場産業については、重点的に取り扱っていく。そして、子どもたちが橋本市の地場産業をしっかりと学習していく。そういう取り組みを進めていきたいと思っています。

○議長（石橋英和君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）よろしく願いいたします。

この項目、もう多分最後になると思うんですけども、先ほど広報とかでもいろいろ知らせてくれるというお話もあったんですけども、実は、ホームページの写真とかっていうのがむっちゃ古いんですよ。今、持たれている方、見ていただいたら、ひょっとしたらわかるかもしれないんですけども、もちろんスペースの問題もありますし、ホームページとはいえ、これもこれもこれもとなったら大変になるんですけども、せめて定期的にある程度更新していただきたい。内容についても、ある程度更新していただきたいとおっしゃるんですけども、これはもう今すぐで

もできるんじゃないかなと考えるんですけども、そのあたりはいかがですか。

○議長（石橋英和君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）現在市のホームページの観光、それから市政のカテゴリー内に、地場産品などの特産品の情報を掲載しております。掲載内容につきましては、田中議員がおっしゃったように、大ざっぱな掲載というんですか、古い情報しか載っていないというのが、今現在の状況でございます。

また、今年4月からはしもとブランド推進室が設置されますので、地場産品、それから農産物などの特産品を推進室がブランド化、それから販路拡大などに積極的に推進していきますので、そのホームページの中に新たにはしもとブランド推進室のページを作成していきたいと。その中で、地場産品、それから農産物などの特産品をより詳しく、細かく掲載させていただいて、市内外にPRを行っていききたいと思っています。

それから、トップページから地場産品の紹介ページのほうへリンクできるように、カスタマイズも行っていききたいと思っています。

以上でございます。

○議長（石橋英和君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）よろしく願いいたします。

これで最後にしようと思ったけど、せっかくはしもとブランド推進室という言葉もいただきましたので、はしもとブランド推進室の方々が営業ということで、たくさん回られると思うんです。そのときに、私も家にはあるんですけども、地場産品のジャケットをつくったやつ、ちょっと重くて厚いんですけど、冬場とかでも実際に着てもらって目につくように、そんな営業も検討していただけたらいいかなと思うんですけども、その辺、どうでしょうか。これはもうもちろんはしもとブラン

ド推進室だけじゃなくって、ひょっとしたら市長にも着てよと言わんなんかもわからんし、その辺、あるんですけれども、そういったのも一つの営業になって、これ高野口やねん、これ橋本やねんみたいなのもええかなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）今、議員からおただしでありましたように、積極的な営業活動というのは非常に大事でございまして、先ほど17番議員からもありました、いくらホームページをつくっても検索サイトになかなかかかってこないという状況であると、せっかくながら非常に無駄になってしまうので、できるだけ検索サイトにかかってくるような方法を十分研究しながら、上位に評価されるように取り組んでいきたいと思っています。

それと、具体的にジャケットを着て営業に回ればというお話もありますが、それも本当に、それに限らずほかのマフラーであったり、いろんなものを身につけて、実際これが橋本市でつくられておる产品なんですよというお話で、営業の話が盛り上がることも十分可能性とあると思います。

それと、例えば国会の議員の椅子が橋本市の生地で作られておるということで、国会で安倍首相が座っている椅子を、多少有料でも譲っていただいて、それを置くことによって、本当にそこに座っていただいて、若干総理の気分も感じてもらえるような企画も、いろんな企画を、皆さんに出していただいて、そういうところから大きな営業促進につなげていきたいと考えております。これは、あくまでも一つの例としてです。

○議長（石橋英和君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）結構夢の大きな話といましようか、私もそこまで考えていなかったんですけれども、ほんまに国会から椅子を

借りれて、持ってこれたら、おもしろいなと正直思います。

確かに地場产品在市民にもあまり知られていないというのは、それはもう生産者自体の発信が足らん部分もあるんですけれども、やはりこの地域の地場产品ということで考えたら、今までもやってもらっていますけれども、これからももっと市も一生懸命やってもらいたいですし、ましてや素材であるというどうしても一番弱いところがついて回るんですけれども、それももう踏まえた上でこれからやっていかな、地場产品的の灯そのものが消えてしまうかなと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

これで1問目を終わります。

○議長（石橋英和君）次に、質問項目2、市内集客施設を利用した観光対策に関する質問に対する答弁を求めます。

経済部長。

〔経済部長（笠原英治君）登壇〕

○経済部長（笠原英治君）紀望の里等市内集客施設を利用した観光対策についてお答えします。

まず、橋本市エコパーク紀望の里の利用状況ですが、利用人数は、当初の計画においては1万7,000人を見込んでいましたが、実績利用人数は、平成23年度で4万3,315人、平成24年度で4万6,686人、平成25年度で5万322人となり、平成26年度には5万6,000人と推計しています。

このことから、利用者の混雑時には待ち時間が発生するなど、利用者にご迷惑をおかけしていますので、混雑を少しでも緩和するため、平成27年度中に増築工事を行い、露天風呂の設置、洗い場の増設、脱衣棚の改修等を行う予定です。

また、紀望の里の芝生広場に、子ども用の遊具や健康遊具を設置し、昼間の比較的余裕

時間帯に集客を図ってはどうかのおただしですが、平成27年度コミュニティ助成事業により、滑り台を1基設置する予定です。それ以上の遊具の設置については、現在設置の予定はありません。

本市としては、温浴施設の利用計画を大きく上方修正していく必要があります、利用者数の増加に比例して求められる安全性についても十分考慮する必要があると考えています。

次に、市内集客施設の相互利用を促すために、PR用看板、パンフ等を設置してはどうかについてお答えします。

観光施策を考える上で、1箇所の施設に偏らず、複数の施設利用により、地域での滞在時間が長くなり、個人消費額を大きくする要素となります。市内各施設の相互利用を促進し、観光客の市内滞在時間を長くし、観光客が点から線の動きとなるよう、紀望の里をはじめとする集客力のある施設から、市内各施設や観光スポットへ誘導する方法を検討します。

その手段の一つとして、地元の人でない知り得ない情報や口コミ評価を載せたパンフレットなどの作成と設置は有効であると考えています。

次に、市民以外の利用を促すための手段についてお答えします。

観光客を集客施設へ誘導するには、行ってみたいと思う魅力ある環境づくりと効率的な情報発信が誘客の鍵となります。高野山開創1200年記念大法会のイベント会場や紀の国わかやま国体の競技会場でのPRなど、県内外からたくさんの方が訪れる場所での情報発信は非常に有効であり、場所、場面をしっかりと捉えた誘客活動が、高い評価につながると考えています。

今後、観光客の動線に合わせて、広域エリアで誘客対策ができるよう、関係機関と連携

し取り組んでまいります。

○議長（石橋英和君）15番 田中君、再質問ありますか。

15番 田中君。

○15番（田中博晃君）答弁ありがとうございます。

先ほど壇上で中島区のお話もしたんですけども、あれ自体が紀望の里に動かせるとは思っていませんし、動かさない理由も全部知っています。ただ、あんなんがあったら、風呂との兼ね合いでええかなというのがあったんでお伺いしました。

そこで、紀望の里自体が周辺整備でできたということで、ちょっと趣旨から外れるかもしれないんですけども、現在パッカー車の基地が平成30年度まで今の場所と決まっておるんですけども、将来的にどのようになっていくのかな。そろそろその辺も考えていかならん時期なんじゃないかなと感じておるんですけども、そのあたりって考えてられますでしょうか。

○議長（石橋英和君）市民生活部長。

○市民生活部長（石井美鈴君）議員おただしの件でございますが、現在旧橋本クリーンセンターの建物の一部を環境美化センターとして利用していますが、平成21年1月に中島区と締結した変更協定によって、施設の設置期限は平成31年3月末日までとなっております。

今後は、本市のごみ排出量の推計を早期に行い、本市のごみ収集に必要な組織体制や施設移転をする場合のコスト等を速やかに検討し、当該施設の基本方針について、庁内で十分に議論を行っていく必要があると考えております。

また、地元の中島区へは、今後とも慎重に協議を行い、施設のあり方について、市の基本方針を説明してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（石橋英和君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）ありがとうございます。

紀望の里のことなんですけれども、やっぱり先ほど経済部長からも答弁いただいたとおりなんですけれども、昼間ってやっぱり割にすいているんですよ。

そこで、昼間の利用者をどないやったら増やせるかなと。あそこは、利益を生める場所だと私は思っています。そこで、せっかく利益を生める場所があるのであれば、夜はかなり混雑しますし、昼間の部分で何かええ考えがないかなと思って、遊具というお話をさせていただいたんですけれども、例えば紀望の里まで車で来て、園地をウォーキングして、健康遊具があって、汗かいて、風呂入って、帰ってもらうというのもええかなと思んですけども、確かに遊具については、実際結構な額、お金がかかりますし、特に健康遊具ってなった場合には、相当な額がかかるのもわかっております。

そこで、今、経済部として昼間利用者を増やす手段というのは、何か考えられているのかなというのを伺いたします。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）先ほどの壇上の答弁でもお答えしましたように、議員おただしの比較的余裕のある昼間の利用促進と利用の時間分散化といいますか、そういったことについてアドバイスいただいておりますが、今のところ、温浴施設という特性から、どうしても時間集中するのが避けられないと考えております。

そういった意味から、非常にキャパを超えた状況になっておりますので、まず安全面を考えたために、どういうふうに対応していけばいいのかということをお優先的に、まずは紀望の里については考えていきたいと思ってお

りますので、どうぞご理解をお願いします。

○議長（石橋英和君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）私が思うのは、まず先ほども言わせてもらいました、まず1個、パンフレットなんです。いろんな施設にはパンフレットってあるんですけれども、例えば真ん中にくにぎふれあいの里がぼんとあって、ここから紀望の里やったら車で5分で行って風呂に入れますよとか、ここからはしたまでこんな卵が買えますよとかって、あんまりないんですよ。

だから、地場産業振興センターも中心になるかもしれないんですけども、各施設、今橋本市内にある集客施設が中心となったパンフ、私はこれはほんまコピー用紙でもいいと思うんです、最初は。どこをスタートにするんよ、どの施設からするんよというのも、言い出したら切りがないんで、できるところからでいいと思うんですけども、これは結構簡単にできるんちゃうかなと思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）ただ今議員のほうからご提案いただきました、いわゆる集客施設からそのほかの観光施設までの距離であったり、所要時間であったり、そういったものをお客さま目線で立った利便性の高いマップを作成するという事は、各施設を周遊していただけますし、非常に有効であると思います。この件については、積極的に対応していきたいと思っております。

○議長（石橋英和君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）よろしく申し上げます。

それで、質問の2番、3番がちょっと合体してしまうんですけども、今まで橋本市のPRっていいますと、結構近場やったら難波へ行ったりというのもありました。南海沿線のPRというのが多いと思うんですけど

も、ふと近くを見れば高野山というのがあります。あそこへは、やっぱり車で行く人というのはかなり多いです。同じ橋本市だけではなく、もうこの付近全てになると思うんですけれども、そういった意味で、本市のPRを高野山とかでやっていったら、自動車で行かれる方も多いで、ひょっとしたら帰りよってみようかというのものもあるかもしれないんですけれども、特に来年度4月、5月、1200年祭って入ってきますし、恐らく来年1年間は、高野山への参拝客というのが非常に多い時期だと思うんですけれども、そのあたりについてはいかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）現在、高野山には日帰りと宿泊合わせて、年間およそ130万人の方が訪れております。多分今年の高野山開創法会とか、これから外国人のインバウンドの促進に向けて、もっと観光客が増えてこようかと思っております。

大阪とか首都圏で、現在不特定多数の方にPRをしておるんですが、既に近くに来ていただいております方に、来県していただいております方にPRすることで、比較的寄っていただける可能性も高まってまいろうかと思っております。

そういう意味で、そういった今までのPR方法とあわせて、高野山でPRするようなことに関しても、伊都エリアの関係自治体と協力しながら、また県と協力しながら進めていきたいと考えます。

○議長（石橋英和君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）今ちょっとまとめて聞いたらよかったですけど、あともう一個言おうと思ったんですが、ちょっとばらばらになって、同じような内容なんですけども、こと夏って考えたら、結構丹生川に泳ぎに行く方も多いです。そして、私も山登りしますけれども、町石道というのもあります。こちらの

行かれる方も、また比較的早い時間に帰られるんですよね。例えば丹生川で、丹生川でやるのがええかどうかは別として、帰り風呂に入れますよというのがあれば、帰りこっちへ行ったらこういうものを売っていますよという、先ほど高野山で答えをもらっているんで一緒のことなんですけれども、例えばかつらぎ町やったら、もうすぐサービスエリアもできるそうですし、道の駅もあります。また、九度山町にも道の駅があるんですけれども、そういったところでも、これはもちろん橋本市へも高野山のであれば、九度山町もかつらぎ町も入ってくるんですけれども、そういった広域でも置いていてもらいたいんです。高野山で答弁をもらったんで、同じ答えやと思いますんで、これについては聞きませんけれども、はい。

次は、お金のかかる話で申しわけないんですけれども、看板の設置ということなんです。て言いますのは、やはり京奈和自動車道というのは、幸い無料です。例えば橋本インターでもうすぐおりのよというところに、ここをおりて5分行ったら、ゴボウの写真がぼんちあって、はたごんぼの絵の看板があって、5分でこんな行けますよとかっていうのがあったら、ひょっとしたら通ったりとか5分やったら寄ってみるかとか、紀望の里で、ここをおりて1分やったら、風呂は入れへんにしても農産物を買ってみるかとかっていう。橋本東やったら、もしかしたらマッシュルームなのかもしれないですし、卵かもしれないんですけれども、こういった看板の設置というのできるんかなと。結構、これ、いろんな法律があつてというのは聞いておるんですけれども、京奈和自動車道の上が無理なら近くの山とかで、おりてもらおうのを目的とした、そこへ寄ってもらいたい、おりて数分で帰るんやったら寄ってみようかというような看

板の設置というのは可能なんですか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）議員おただしのとおり、案内看板設置するというのは、実は観光誘客に非常に大切な部分でして、まずはそこからというのが、だいたい全国の市町村で実施されておるところなんです、ご指摘のとおり、非常にお金がかかることが多いです。特にこの京奈和自動車道のインターチェンジ付近の大型看板設置ということになりますと、道路管理者とか土地所有者の許可がまず必要ですし、強風等に耐えられる安全性の高い仕様を、道路管理者から求められると思います。そういった意味で、設置費用も非常に高くなってまいりますので、今後慎重に検討していきたいと考えています。

○議長（石橋英和君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）ちょっとつけ加えさせていただきますけども、きのう答弁させていただいたんですけども、地方創生事業の中で、市脇のバイパスの途中に現在ある看板を電光表示にするということで、説明をさせていただきましたので、その中でも紀望の里のPRも可能だと考えておりますので、よろしくをお願いします。

○議長（石橋英和君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）法律もいろいろあって、市にある程度移管されとるとも聞いておるんですけども、難しいところはわかっていますけれども、できたら寄ってもらえるのかなと思います。特に、今年は秋に国体もありますので、その方々にもうまいこと寄ってもらいたいなというのもあるんです。

で、国体といえばやっぱりここへ来られる人って、ネットで検索したりというのが増えてくるかと思えます。私、いろんな団体に顔を出したりいろいろやっている中で、集客という部分とお金を使わない、そして今年度の

予算でも動画のホームページというのも上がっておるんですけども、例えば富山県でやっているとやまde踊ってみたというのがあるんです。これは、富山県内にあるいろいろな施設の前で踊ってPRするというやつで、ユーチューブとかニコニコ動画で上がっております。閲覧数を見てもらったらびっくりすると思うんですけども、何万という閲覧数なんです。

で、橋本市も同じようにひっかかればありがたいんですけども、例えば個人、市民団体問わず、そういう市内にある集客施設の前で何らかのPRを、市民の方々にユーチューブやニコニコ動画に上げてもらうということで、もしかしたら検索にひっかかる可能性もあると感じます。

市として、その間、中を取り持つというんですか、例えばこういうのを広報とかでこういう団体を探していますというのをやって、もし来た場合に、その施設とその団体であるのか個人であるのかわからないんですけども、その間を取り持つ、例えばきょうのこの時間、来週のこの時間やったらこの施設の前やったら自由に撮ってもらって、そうやってユーチューブに上げてもらってもいいですよという間を取り持つという仕事は、お金もかからずに、一つの市のPRになると思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）どういったことをやっていただくかということについては、またいろいろ内容をお聞かせいただいて、その都度調整が必要かなと思うんですが、実は、今、だんじりの協議会が、要望もあって、行政手続きが非常にいろんな窓口に行っている必要があるんで、非常に面倒やということで、一括したワンストップの窓口にしてくれという要望から、現在経済部の商工観光課で市役

所内の全ての行政手続きを一旦受け付けさせていただきます。商工観光課から、それぞれ担当する課に配付させていただいて、それを一括ワンストップで行うような仕組みづくりをしております。

ただ、これらにつきましても、それぞれの課でいろんな意見があったり、問題に対しての説明を求めたりする部分については、それぞれでやっていただいておりますけど、そういったことも含めて、直接の回答になっておるかどうかわからんですけど、そういったやり方でワンストップでしていけるような可能性は十分あるのではないかと考えております。

○議長（石橋英和君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）やっぱり市民活力というのも、どんどん使って行って、逆に恐らく市民の方も知らないことも多いと思いますん

で、経済部が窓口かどうかわからないですけども、市のほうから、こういう施設の前でやってみませんかとかっていうのがあったら、また市のことも少しわかっていただけるのかなとも思っています。

あと、これは要望なんですけれども、恐らくやってくれるとは思いますが、せめて国体の期間中だけでも、国体の前からすけれども、集客施設の告知をホームページのメインのところにはぼんと持ってきてもらえたら、もちろん各会場ではされると思うんですけども、そういうホームページでもやっていただけたらなと思っております。

これで、一般質問を終わります。

○議長（石橋英和君）15番 田中君の一般質問は終わりました。

この際、午後3時10分まで休憩いたします。

（午後2時58分 休憩）